

現役学生による就職活動報告

山路 将貴

Masataka YAMAJI

守田 翔一

Shoichi MORITA

1. 私の就職活動

(山路 将貴)

就職活動が解禁されたのは12月ですが、私が本格的に就職活動を始めたのは3年の3月でした。当時の私は、やりたい仕事や業界もわからず就職活動に対してやる気が出ませんでした。

12月から3月までは企業説明会には参加せず、とにかく履歴書を書いていました。履歴書やエントリーシートに書く項目である「自己PR」と「学生時代頑張ったこと」を中心に考えました。自己PRを書くためには自己分析をしなければいけません、自分を分析することは簡単なようでとても難しいです。自分はどんな人間なのか、自分の長所は何か、意外と出てこないし書けないものです。私は家族や友人に自分が周りからどんな人間だと思われているのか、長所と短所は何かを聞くことで自己分析しました。自分では気付かなかった長所や短所が明確になり書きやすくなります。

3月頃になると企業は本格的に選考を始めます。説明会や面接で忙しそうなおゼミの友人を見て焦りを感じた私は、就職活動を開始しました。履歴書を書いて、ある程度自分がやりたい仕事を絞っていたので、気になった企業の学校推薦を取り選考に臨みました。しかし、結果は筆記試験(SPD)で不合格でした。苦手な数学の出来が悪かったのと、そもそも筆記試験の出題傾向や推論等の対策をしていなかったのが原因でした。これをきっかけに1日30分を目標に筆記試験の対策をしていきました。少しの時間で良いので自分に合ったペースで進めることが長く続けるコツだと思います。

2社目も学校推薦を取り選考に臨みました。ここで初めての面接を経験します。私は面接の練習や対策を全くしていなかったため、緊張で頭が真っ白に

なりました。1次面接は何とか通過したものの、最終面接で技術面の質問に答えることができず不合格になりました。企業の方に自分の意見や思いをうまく伝えることは難しく、慣れが必要だと感じました。また、履歴書の内容を丸暗記してしまい自分の言葉で自己PRや志望動機を言えなかったことで熱意が伝わらなかったのではないかと思います。

学校推薦は基本的に内定を辞退できないため1社ずつ取り組みましたが、6月からは自由応募で選考に臨みました。その結果、技術系アウトソーシングの大手企業と福岡で七社会と言われる地場大手企業のうちの1社から内定をいただきました。学校推薦を活かせなかったことは申し訳ないですが、その経験はしっかり活かすことができましたと思います。今はキャリア支援センターでジュニアアドバイザーとして後輩の就職活動のアドバイスをしています。

就職活動を振り返って、私が大切だと思ったことを3つ書きます。1つ目は就職活動に備えて準備しておくことです。志望動機は目指す業界や企業がある程度定まっていなくて詳しく書くことは難しいですが、筆記試験の対策や自己分析は就職活動前にできると思います。2つ目は履歴書を丸暗記しないことです。私は伝えたい重要なポイントだけを覚え、自分の言葉を繋いで伝えるようにしました。面接官は履歴書に目を通しているはずですが、履歴書の内容をそのまま言うのではなく、自分の熱い思いをぶつけた方がきつとうまくいくと思います。3つ目は自分のペースで就職活動をすることです。他人のペースに流されずに、自分の意志で活動することが大切だと思います。

諦めずに熱意を持って続ける事できつと内定を勝ち取れます。悔いの無いよう精一杯取り組んでください。

著者紹介

山路 将貴（やまじ まさたか）

平成 27 年 3 月 九州産業大学情報科学部情報学科
卒業見込み 安武研究室所属

2. 私の就職活動

（守田 翔一）

私の就職活動は3年生の2月から始まりました。12月1日から本格的に就活を始めた他の学生と比べ活動が遅く合同説明会などへ全く参加していませんでした。そこで、主に会社独自で行う説明会に参加することから始めました。活動開始が遅れてしまった分だけの経験が必要だと感じ、IT系の企業はもちろんのこと日程が合えばその他の業種の説明会にも参加し、予定表には週に4社ほどの予定が入っていました。また、学校推薦などを視野に入れながら企業選びを始めました。いくつかの優良企業の募集がありましたが、意外と志願する人が少なく私はこれに目をつけました、SPI試験などのある1次選考が免除であったりし選考の回数が少ないのです。

私は大学で部活動や落書き消しのボランティア、飲食業のアルバイトで接客業の経験があったので面接は自信がありました。しかし、選考に入ると問題が起きました。エントリーシートで落とされたり、筆記試験で落とされたりと面接以前の選考落ちが多かったのです。活動前にSPIの対策が十分でなかったことや、自己分析がまったくできてなく自分を文章で表すことができいていませんでした。先のことしか考えていなかった結果、先に進まない就職活動にあせりを感じ後悔ばかりでした。そこで、友達の助言や就職活動をする仲間たちと相談し自分なりに対策を2つ考えました。

1つ目は、周りの人と合わせるだけはいけない、就職活動は一人でやるものだという事です。学内だけではなく学外の人とも戦わなければなりません。周りと同じ行動をしていても企業に見てもらえないこと、説明会で積極的に質問し自分を見てもらうことが大切です。就職活動では様々な学生の体験記やノウハウがあると思いますが、同じ行動をしても内定は取

りません。いかにそれを超え自分を出せるかが重要だと思います。

2つ目は、インターネットで企業情報を見てどのような人材が必要なのか調べ、面接ではよく聞かれる御社に志望した理由、10年後の自分などの質問への回答を考えることです。それらの準備をして面接に挑むことによって自分に余裕を持つことができ、自信を持ち的確に発言することができます。

これらの結果、自分の熱意も伝えることができ内定を得ることができました。就職活動は一人で活動し、辛いこともあります、あきらめずに続けることで内定につながると思います。

著者紹介

守田 翔一（もりた しょういち）

平成 27 年 3 月 九州産業大学情報科学部情報科学
科卒業見込み 安武研究室所属